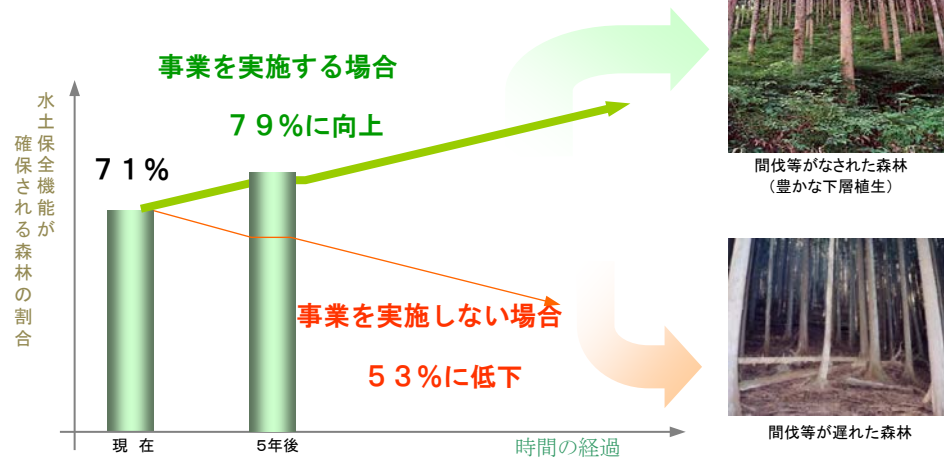


安心

国民が安心して暮らせる社会の実現

【実施の目標】 下層植生や樹木の根が発達することにより土壌を保持する能力に優れた森林や、森林土壌等の働きにより雨水を地中に浸透させゆっくりと流出させるとともに水質を浄化し水を育む能力に優れた森林の整備、山地災害を防ぐ施設等の整備により、国民が安心して暮らせる社会の実現を図る。

● 国土を守り水を育む豊かな森林の整備・保全

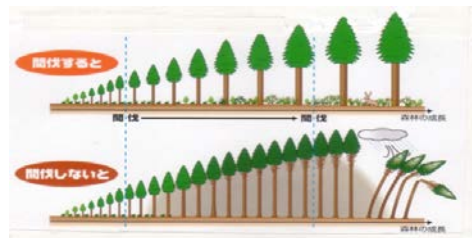


目指す主な成果

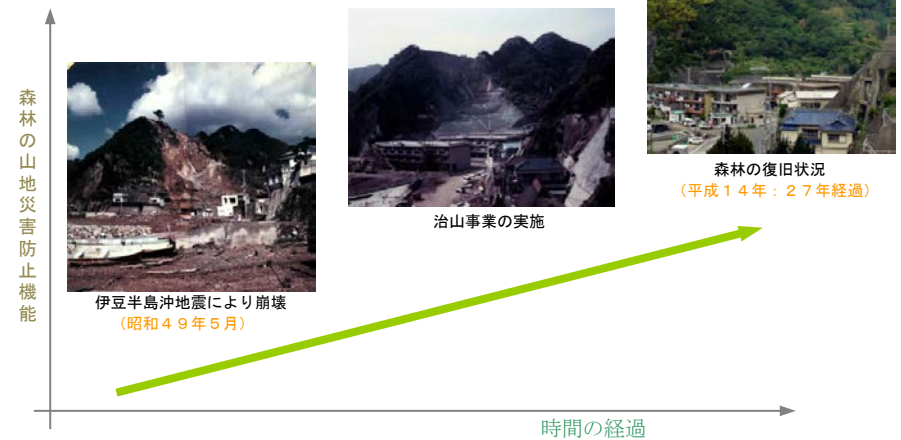
▶ 育成途中の水土保持林のうち、土壌を保持する能力や水を育む能力が良好に保たれていると考えられる森林の割合を71%から約79%まで向上させる。(事業を実施しない場合は約53%に低下)

主な施策

● 森林の整備 (間伐等の密度管理)



● 山崩れ等の復旧、予防



目指す主な成果

▶ 崩壊した森林の再生やその予防等を通じて地域の安全性の向上を図ることとし、特に、周辺の森林の山地災害防止機能等が確保された集落の数を、現状の約5万2千集落から約5万6千集落に増加させる。

● 森林の保全 (荒廃地の再生や荒廃の予防)



共生

森林と人との共生する社会の実現

【実施の目標】 森林の多様性の維持増進を図るための整備、防風などの生活環境保全機能の維持や、ユニバーサルデザインにも配慮した保健・文化・教育的利用に適する森林の整備等により、森林と人との共生する社会の実現を図る。

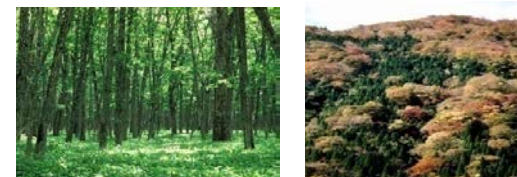
● 森林の多様性の維持増進

目指す主な成果

▶ 多様な樹種や階層からなる森林への誘導を目的とした整備を推進し、育成林全体に占める育成複層林面積の割合を現状の8.5%から約10%に増加させる。併せて、育成単層林から育成複層林へ約7万ha誘導する。

主な施策

- 人為と天然力を組み合わせた育成複層林の整備
- 多様な森林の造成
- 景観への配慮



● 身近な生活環境の保全

目指す主な成果

▶ 海岸林や防風林などの延長約7,300kmについて、海岸侵食や病虫害からの森林の保全等を行うことにより、近接する市街地、工場や農地などを保全する。



農地等を保全する森林

主な施策

- 飛砂、潮風、強風等から生活環境を守るための森林を維持造成
- 松林保全対策



● 森林環境教育の推進

目指す主な成果

▶ 森林環境教育等に利用されている森林や施設において、継続的に環境学習や森林づくり活動等に利用するための森林空間の整備・保全を行うことにより、当該森林等を常に利用できる状態に維持する。このことにより、子どもたちの森林環境教育の活動機会を提供し、その参加人数を現状の約44万人から約50万人に増加させる。

主な施策

- 環境学習や森林づくり活動等に利用するための森林空間の整備・保全



循環

循環を基調とする社会の形成への寄与

【実施の目標】再生産可能な資源である森林を適切に整備し、そこから生産される人と環境に優しい素材である木材の積極的かつ多段階的な利用を図ることにより、「植栽→保育→収穫→植栽」のサイクルを円滑に循環させ、自然界における物質の適正な循環を損なうことのない循環を基調とする社会の形成に寄与する。

● 森林資源の循環利用の促進



国産ペレットストーブとペレット

目指す主な成果

▶ 森林施業の集約化や機械化に必要な林道等の林業基盤の整備により、木材の安定的かつ効率的な供給が可能となる育成林の資源量を約1億6千万m³増加させる。この増加量は、森林・林業基本計画に掲げる平成27年の木材供給目標量である23百万m³/年(丸太ベース)の約5年分に相当(現状の約34年分の供給可能量が約39年分に増加)する。

主な施策

- 効率的な森林施業を可能とする林内路網の整備
- 間伐等の森林施業の実施により、森林の健全性を確保
- 施業の集約化・共同化を促進
- 高性能な林業機械による作業システムの導入を促進



路網整備と高性能林業機械を組み合わせた効率的な森林施業

【実施の目標】 森林の有する多面的機能の発揮に重要な役割を果たす山村において、林業生産活動の活発化や居住環境の整備、都市と山村との共生・対流等に向けた施策を講じ、快適な森林環境や優れた森林景観の保全等に配慮しつつ、森林資源を活かした活力ある地域社会の形成に寄与する。

● 森林資源を活用した地域づくりの推進

目指す主な成果

▶ 森林資源を活かした地域づくりを推進する観点から、全国158の流域(森林計画区)のうち、間伐等の適切な実施や伐採後の的確な更新を図りつつ、森林資源を積極的に利用している流域を現状の約30流域から約80流域に増加させる。

● 山村地域における居住環境の向上

目指す主な成果

▶ 5年間で約210万人の山村地域の住民を対象に居住地周辺の森林や生活環境の整備を行い、定住条件の向上を図る。

主な施策

- 山村地域の居住地周辺の森林整備、居住基盤の整備
- 都市との共生・対流に向けた交流施設などの整備
- 森林資源の利用に向けた基盤整備
- 保育や間伐などの適切な施業による森林資源の育成



森林の整備・保全を支える山村地域



森林整備(間伐)



交流施設(キャンプ場)



地域材利用の推進

事業実施に当たっての留意事項

1 施策連携の強化等

- ▶ 森林整備事業と治山事業との適切な役割分担
- ▶ ソフト施策との連携
- ▶ 他の公共事業計画に位置づけられた事業との連携

2 森林資源及び既存施設の有効活用

- ▶ 間伐材等の地域材の利用を推進
- ▶ 治山施設、林道等の機能の強化などによる既存施設の有効活用

3 地域の特性に応じた事業の実施

- ▶ 国、地方公共団体等それぞれの適切な役割分担の下、これらの連携による効果的な整備の推進

4 低炭素社会づくりへの対応

- ▶ 間伐等の推進
- ▶ 地域材の住宅等への利用拡大、間伐材を含む林地残材等の未利用材の資材・エネルギー利用拡大への取組等を推進

5 多様な主体の参加の促進

- ▶ 事業の構想段階からの住民意見の反映
- ▶ 地域住民やNPO等多様な主体の参画による森林の整備・保全の推進

6 入札及び契約の公正性・透明性の確保並びに品質の確保

- ▶ 国が行う森林整備保全事業の発注は、一般競争入札により、公正性・透明性を確保
- ▶ 総合評価落札方式の導入等を通じた公共工事等の品質の確保

7 事業評価の厳格な実施と透明性の確保

- ▶ 費用対効果分析などによる事業評価の厳格な実施
- ▶ 事業の各段階における積極的な情報公開による透明性の確保

8 工期管理とコスト縮減

- ▶ 限度工期内での事業完了
- ▶ コストと品質の両面を重視する取組を進め、総合的なコスト構造の改善を推進

現行計画の成果指標と達成状況

- 「安心」「共生」「循環」「活力」の視点から森林整備事業の実施の目標及び8つの成果指標を設定。
- 現行計画の目指す成果についての達成状況は以下のとおり。

現行計画の目標	目指す主な成果	達成状況			
		目標値	現況(H20)	H24見込み	
「国民が 安心 して暮らせる社会の実現」	▶ 育成途中の水土保持林のうち、機能が良好に保たれている森林の割合	79%	71%	74%	※達成率84%
	▶ 周辺の森林の山地災害の防止機能等が確保される集落の数	5万6千集落	5万2千集落	5万4千集落	※達成率70%
「森林と人との 共生 する社会の実現」	▶ 育成林全体に占める育成複層林面積の割合	10% (7.2万ha)	8.5% (2.5万ha)	9% (4.1万ha)	※達成率74%
	▶ 海岸林や防風林などの総延長	7,300kmを保全	7,300千km	94%	概ね達成
	▶ 環境学習や森林づくり活動等に利用するための森林空間の整備・保全(森林環境教育の参加人数を50万人に増加)	50万人	44万人	44.7万人	※達成率91%
「 循環 を基調とする社会の形成」	▶ 木材として安定的にかつ効率的な供給が可能となる育成林の資源量	12億1千万m ³	10億5千万m ³	12億2千万m ³	達成見込み
「 活力 ある地域社会形成への寄与」	▶ 森林資源を積極的に利用している流域数	80流域	30流域	40流域	※達成率57%
	▶ 山村地域における生活環境の整備(約210万人を対象に定住条件を向上)	210万人	—	—	関連施策廃止

※達成率については、H24見込み値とH24目標値との比較